

藤枝市

地形概況

北部は瀬戸川・葉梨川流域山地で谷底低地も発達するが崩壊しやすい山地である。低地は南部の大井川扇状地が礫質性であるのに対し、朝比奈川や葉梨川低地は低湿な三角州性で堆積物も泥質である。丘陵性地域では地形改変が進んだ。

地質概況

山地は砂岩を主とする三倉層群と砂岩・泥岩・頁岩やそれらの互層を主とする瀬戸川層群が帯状に分布する。大井川層群も砂岩や泥岩からなり、侵食が進んで丘陵を形成し、断層によって分断されている。低地は泥層・砂泥層・砂礫層と地域差が大きい。

気象概況

年平均気温は推定 15.0℃、年平均降水量が 2,558mm(瀬戸谷)。平坦地と山間地との温度差が大きい。冬季は温暖で穏やかな晴天の日が続く。降雨は県内の平均以上で特に春から夏季(4月から8月)にかけて全降水量の約 50%が降る。

災害事例 地震

- 1965年4月20日(昭和40年) M=6.1
静岡付近の局地震。清水平野北部で被害が大きく、全体で死者2人、負傷者4人を生じた。藤枝市立志太病院(鉄筋コンクリート造)のはめころしの窓ガラスが割れた。
- 1944年12月7日(昭和19年) 東南海地震 M=7.9
県中・西部で被害が大きかった。各地の震度は、広幡で5~6、藤枝・葉梨で5、大州で4~5であった。
- 1891年10月28日(明治24年) 濃尾地震 M=8.0
青島村、志太鉱泉に噴出する天然ガスが、地震の際地下の鳴動と共に噴出量が数倍になり、ガス溜をおおう鉄製の蓋を上下させた。鉱泉も水量が平常の倍のなった。
- 1857年7月14日(安政4年) M=6 1/4
藤枝では強くゆれたが、倒家もなく怪我人もなかった。大井川下流の田中御城内では、堀・石垣ところどころ破損、蔵少破という。
- 1854年12月23日(安政元年) 安政東海地震 M=8.4
全県下に被害があったが、藤枝宿でも上伝馬町で潰家2戸、半潰43戸、下伝馬町で潰家1戸、半潰24戸、惣平町七ヶ町で潰家10戸、半潰67戸あり、東の方10町ばかりは焼失した。また田中城内は皆潰れとなり、横内で民家総潰れ、青島で瓦葺の建物は殆ど倒れた。築地で3~6尺地割れして泥水の噴出あり、50余戸潰、また藤枝宿で地割れ、泥水噴出し、2~3尺ばかりも上へ飛走り、井戸水も噴出すなど、地盤液状化の現象がみられたが、稲葉・高州・築地などでも同様な現象があった。震度は藤枝宿・田中横内・築地で7、高州で6~7、大州・青島で6、稲葉で5であった。

- 1707年10月28日(宝永4年)宝永地震 M=8.4
県下全体に被害を及ぼしたが、藤枝町でも午下刻に地震があり、町中の家が破損した。潰家23戸、半潰家59戸といわれている。また田中城でも、石垣・塀などがこわれ、侍屋敷101戸、足軽屋敷110戸、長屋18箇所が潰れた。震度は藤枝・田中で6である。

災害事例 台風

- 1982年9月12日(昭和57年)台風18号
県中部を中心に全県下に被害あり、藤枝市内の朝比奈川で堤防が決壊するなどして、死者1名、負傷者3人、全壊5戸、半壊3戸、床上浸水529戸、床下浸水922戸の被害がでた。
- 1974年7月7日(昭和49年)台風8号(七夕豪雨)
全県に被害があり、当地では全壊3戸、半壊4戸、床上浸水744戸、床下浸水680戸、冠水田81ha、決壊道路72箇所、橋梁10箇所、堤防15箇所、山(崖)崩れ86箇所などの被害を出した。
- 1952年6月23日(昭和27年)ダイナ台風
御前崎から駿河湾北部を通過した台風で、小河川が氾濫した。藤枝町で200戸、葉梨村で500戸、青島町で400戸が浸水した。
- 1941年7月22日(昭和16年)
中部以東で被害があり、藤枝では全壊46戸、半壊42戸、床上・下浸水550戸である。
- 1922年8月25日(大正11年)
全県下特に中・東部で被害大であった。瀬戸谷で日雨量307mm(25日)、藤枝で280mm(25日)を記録した。
- 1911年8月4日(明治44年)
全県下特に西部で被害大であった。藤枝の日雨量は268mm(4日)に達し、広幡で23戸、葉梨で52戸の流失家屋があった。
- 1910年8月9日(明治43年)
全県下特に中・西部が被害を受けた。前日よりの降雨に加え豪雨となり、河川は増水氾濫した。瀬戸川堤防が決壊し、流域地方の郡下での山腹の崩壊は1,200箇所あまりに達した。当地の被害は半壊11戸、床上浸水143戸、床下浸水1,070戸であった。
- 1897年9月9日(明治30年)
志太郡下全域で家屋倒壊、全壊701戸、半壊805戸に達した。
- 1858年7月22日(安政5年)
大雨により瀬戸川堤防が切れ、木町・川原町・横町・蔵小路辺くいずれも床上に水の上る。木町で床上1尺6~7寸でさらに深い所もあった。

- 1828年8月10日（文政11年）
昼頃よりの大風雨で大井川が氾濫し、夜9時頃堤防が決壊した。それにより一帯は、田畑は荒地となり、家屋流失、人畜の溺死などの損害を受けた。
- 1804年9月30日（文化元年）
4日間降雨が続き、大井川は洪水となり、堤防の決壊により、家が流れまた浸水は床上2〜3寸から4〜5尺に達したという。善佐衛門村で流失家屋32戸、被災者142人といわれている。